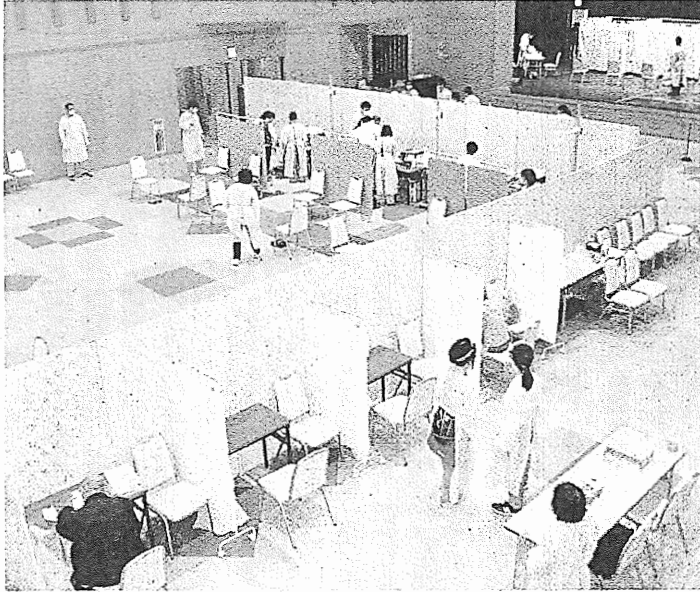


いきいき健診 工夫凝らし

項目数半減もアプリ導入し検査

初年度 受診者 2回目追跡調査へ



新型コロナウイルス対策を施して始まった今年度のいきいき健診

同大など全国8大学が2016年度からの10年間、全国1万人を対象に、認知症の危険因子や予防方法を探るために行っている大規模調査の一つ。弘前市民対象の健診は約2400人を対象に隔年で実施。今年度は30日までに822人の参加を予定している。

今年度の健診は新型コロナウイルスの感染拡大で実施が危ぶまれたが、検査項目を削減して1時間以内で巡回できるようにし、ガウンの着用など防除策を凝らした形で行った。エーザイ(本社東京)開発のアプリ「のうK

健康寿命延伸に向け、弘前大学と弘前市が65歳以上の市民の健康状態を10年間追跡調査する「いきいき健診」が26日、同市の岩木文化センターあそべーるで始まった。新型コロナウイルス対策として例年に比べ

弘前で開始

検査項目を半分に減らしたが、アプリを使用した新たな認知機能検査を導入するなど工夫。市民の健康づくりへの意識高揚と認知症の解明と予防、治療法確立を目指す。(福田藍至)

「NOWテスト」を認知機能検査に取り入れるなど、非対面式の検査も導入した。同大COI研究推進機構の中路重之拠点長は「今年度の開催ができないと、次回検査まで3年が空くことになり検証の意味が薄れてしまう。継続性が確保でき安心している」とし「産官

学民が協働しなければ地域の健康づくりはできない」と意義を強調。村下公一 副拠点長は「今年度は初年度に検査を受けた人の2回目の追跡調査になる。データの蓄積から得られた知見を弘前市民の認知症予防につなげていきたい」と述べた。